

ツ・ナ・ガ・ル

季刊誌 2014年 冬号 16

ようこそ！

参加する

医療へ。



[人] 宮澤 靖 / 長尾和宏 / 山口育子 / 河内文雄 / 岩本ゆり / 榊原千秋

[連載] 山中英治 / 若林秀隆 / 吉田貞夫 / 岡田晋吾 / 高野登 / 宇都宮宏子 / 今田光一

みなさん、まじくりましょう！

上下や横の関係を飛び越えてごちゃ混ぜになり交わる…まじくる」とは、交わるをもっと自由に、さらに一歩踏み込んだ人と人との関係を表した造語です。地元兵庫西宮や尼崎で使われ始め、全国に広がりつつあります。

医療がもっと自由になる。いろいろな職種や立場の人が出入りし、自分の考えを述べたり、ほかの人の意見を聞いたりする。生活の場に医療をおく。窓を開き、行き交う市民の声に耳を傾ける。どんな言葉がささやかれているか、どんな希望や期待が語られているか。それをしっかりと受け止める。扉を開き街の中に繰り出す。白衣を脱いで市民とまじくる。

在宅の場から眺めると、病院が閉鎖的で異様なことが分かります。病院は医療の一部にすぎないことに気づいていない。車で例えると修理工場であるのに、そこが中心であると勘違いしている。外の世界とまじくらないから、道路を走ることを知らない。想像も理解もできない。患者は退院すると生活者です。その生活を知らずして、どうやって患者のための医療などできるのでしょうか。まじくらないから見えてこない。勤務医の9割近くが平穏死を知りません。穏やかで豊かな死があることに気づかずひたすら延命処置を施していく。そのまま医師生活を終える人がほとんどです。

私は勤務医として平穏死があることに気づくのに10年かかりました。10年間、多くの患者に延命処置を施し、辛い目に合わせてきました。悪いことをしてしまつたという思いから離れることができません。自分に対する叱責の念が懺悔となり、今の私を突き動かしています。みんなが納得できる死とはどういうものか。多くの医療者に正視してほしい。病院死と在宅死はまったく異なることに気づいて欲しい。私はいろいろな場に立ち、考えを伝える活動に取り組む覚悟をしました。

昨年8月、私は1冊の本を上梓しました。『医療否定本』に殺されなかったための48の真実』というタイトルの本です。今ある医療を否定する数々の著作がベストセラーとなっている近藤誠氏の『理論』を正面から否定するものです。『信者』とも呼ばれる人が増加し、治療や検診の機会が奪われ、犠牲者も出ている状況に我慢がならなくなつたからです。近藤氏の『理論』は医学の正しい知識と理解があればその間違いは明らかです。ならば、なぜ近藤氏の著作がベストセラーであり続けるのか。私はその理由が、近藤誠現象』とも言える部分にあると考えています。

近藤氏の『信者』は理論に賛同しているわけではありません。医療を否定する近藤氏の姿に自らの医療に対する不信感を重ね合わせているのです。「副作用に泣き続けた」「主治医が話しを聞いてくれなかった」「最期まで抗がん剤を打たれた」「緩和ケアを受けられなかった」など、患者や家族が抱えている医療への怨念のようなものが、近藤氏への『共感』を生み出しているのです。私はこうした『近藤誠現象』を否定するものではありません。市民が発した医療への切実な声の出口を求めてたまたま近藤氏の著作に結びついた。医療者はその声をしっかりと受け止めなければなりません。理論と現象を切り分け、現象を生み出している背景を考える。学ぶべきことはたくさんあるのではないのでしょうか。

患者主体の医療という言葉が聞かれるようになりました。しかし、これは医療側が作るものではありません。市民とまじくるなかでお互いに作り上げていくもの



医療とは？ 介護とは？ 人間とは？

生活の場に医療を置き、ひとりの

町医者』として、鋭い『問い』を

突きつける長尾医師。「まじく

る』に医療の未来がある」と語る

その真意とは何でしょうか？

長尾和宏

Nagao Kazuhiro

医療法人社団裕和会・理事長 長尾クリニック・院長

1984年東京医科大学卒業 大阪大学第二内科入局、同年～聖隷病院勤務、1986年～大阪大学病院第二内科勤務、1991年～市立芦屋病院内科勤務、1995年～尼崎市に長尾クリニック開業、現在に至る





ようこそ！参加する医療へ。

みなさん、まじくりましょう！（談）

科学技術が発達し、医学が進歩するなかで、いろいろなことができるようになりま

終末期には延命と縮命の分水嶺があります。あるところまではいいのだけれど、そ

です。サービスの受け手の声を聞かずに、サービスを作り上げるなどありえないこ



長尾和宏氏の公式サイト「医療とは」「介護とは」「人間とは」…、「問い」を発信続ける長尾氏のいまが分かる。http://www.drnagao.com/

右：「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもつとボケるで！」長尾和宏（著）、丸尾 多重子（著）、ブックマン社 中：「抗がん剤 10の「やめどき」」長尾和宏（著）、ブックマン社 左：「医療否定本」に殺されないための48の真実」長尾和宏（著）、扶桑社

